

## ❀ 古代瓦研究会シンポジウムの開催

都城発掘調査部・考古第三研究室では藤原京および平城京から出土する瓦の調査研究を主な業務としています。その一環として、古代の瓦を全国的な視野で検討することを目的として、1997年度より古代瓦研究会を主催しています。

この研究会では、古代における特徴的な瓦の型式をテーマとし（「藤原宮式」や「東大寺式」等）、その瓦が全国的にどのような展開を遂げているのか、各地域の研究者の方々にご発表いただき、総合的な議論をおこなっています。

この研究会の大きな特徴は、瓦の製作技法に注目した検討をおこなうため、毎回各地域の関連する瓦を会場に展示し、参加者に瓦を実際に手に取って観察していただいた上で、それをもとに議論・検討をおこなう点です。この企画は、各地域の瓦を一堂に会して比較検討できるため、毎回好評をいただいています。

今年度は18回目にあたり、2018年2月3・4日の2日間、「一本づくり・一枚づくりの展開1」というテーマで開催しました。これは、奈良時代を中心とする軒丸瓦・軒平瓦・平瓦の特徴的な製作技法に着目し、東日本におけるその技法の展開について検討したものです（来年度は西日本での展開を取り扱います）。従来、研究会の開催にあわせて発表要旨集を刊行していましたが、今回は旧国単位での状況を理解しやすくするために、174頁にわたる資料集も併せて作成しました。

今回は2日間で延べ247名にご参加いただき、極めて活発な議論がおこなわれ、盛会となりました。

（都城発掘調査部 林 正憲）



実物資料の見学の様子